

小松市 市勢要覧

＜内容紹介＞

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1. 市の概要 | 7. 伝統の技・食の魅力 |
| 2. 市章・市の木・市の花・市歌 | 8. 歌舞伎のまち |
| 3. 姉妹都市・友好交流都市との交流 | 9. 乗りもののまち |
| 4. 自然・環境 | 10. 環境王国こまつ |
| 5. 交通・運輸 | 11. 科学とものづくり |
| 6. 産業・経済 | 12. 珠玉と石の文化 |



1. 市の概要

<位置>

小松市は、石川県西南部に広がる豊かな加賀平野の中央に位置し、産業都市として発展し、南加賀の中核を担っています。

東には霊峰白山がそびえ、その裾野には緑の丘陵地、そして田園、平野が広がっています。それを縫うように梯川が流れ、安宅の海に注いでいます。

- 東経 136度22分～136度36分
- 北緯 36度08分～36度26分
- 範囲 東西25.5キロ、南北33.1キロ
- 標高 最高1,368メートル
- 海岸線 7.5キロメートル
- 面積 371.05平方キロメートル



<市域（編入合併の歴史）>

昭和15年12月1日、小松町・安宅町・牧村・板津村・白江村・苗代村・御幸村・栗津村の2町6か村が合併して市制が敷かれました。

続いて昭和30年4月1日、矢田野村・那谷村・月津村（柴山を除く）及び中海村を編入合併。

昭和31年9月30日、金野村・西尾村・新丸村・大杉谷村・国府村（和気等を除く）を編入合併し、面積は372.75平方キロメートル、人口は8万8,707人となりました。

昭和45年には、三湖干拓事業によって面積は374.72平方キロメートルに増加しましたが、昭和63年10月1日に371.13平方キロメートルと統一されました。

その後、面積の計測方法の変更と計測の基礎となる地図の切り替えが行われたことに伴い、平成26年10月1日に371.05平方キロメートルに変更されました。

年月日	概要	人口	面積 (km ²)
昭和15年 12月1日	【市制施行】 小松町・安宅町・牧村・板津村・白江村・苗代村・御幸村・栗津村が合併	51,522人 (昭和15年12月1日)	91.07
昭和30年 4月1日	【第1次編入】 矢田野村・那谷村・月津村(柴山を除く)・中海村を編入	73,074人 (昭和30年1月31日)	154.26
昭和31年 9月30日	【第2次編入】 金野村・西尾村・新丸村・大杉谷村・国府村(和気等を除く)を編入	88,707人 (昭和31年9月1日)	372.75
昭和45年	三湖干拓事業により面積増加	—	374.72
昭和63年 10月1日	建設省国土地理院において高精度の方法で計測した結果得られた数値で全国的に統一	—	371.13
平成26年 10月1日	国土交通省国土地理院において電子国土基本図を用いた高精度の方法で計測した結果得られた数値で全国的に統一	—	371.05

2. 市章・市の木・市の花・市歌

＜市章＞



小松の「小」と「松」の常緑の枝葉を図案化し、さらに、3つのまともりは、工業、商業、農水林業が伸展し、限りなく市勢が発展することと調和、円満、固い絆を表したものです。

＜市の木「松」＞



小松の名の起こりの一つに、986（寛和2）年に花山法王が梯川のほとりに、花園をつくり、松を植えられたという伝承があります。その由来から、市制40年（1980年）を記念して、市の木に「松」が選ばれ、制定されました。

常緑樹の松のように、いつまでも強く、気高く栄えるようにという、市民の願いも込められています。

＜市の花「梅」＞



小松城に隠居し、小松の近世の基礎を築いた前田利常公の家紋「剣梅鉢」から採っています。

梅は寒さにめげず、百花に先駆けて香りを漂わせて咲き、花も実もある姿は、小松の市民性をよく表しています。

市制40年を記念して行われた市民投票で、最も多く市民の支持を集め、制定されました。

＜小松市歌＞

市制施行の1940（昭和15）年の翌年3月に、産業都市の建設、観光の町、躍進の小松を歌った「小松市歌」（作詞：蕪木正芳、作曲：今井松雄）が作られました。

につぼんかい あらしお
1 日本海の荒潮の
さかま なみ たたか
逆巻く濤と闘いて
さんぎようとし けんせつ
産業都市の建設に
きほ われ おたけ
勢ふ我らが雄叫びは
だいはくさん くもはら
大白山の雲拂う
せいさん だいこまつ
おお生産の大小松

こんごうづえ なみだ
2 金剛杖に涙して
よしつねう まごころ
義経撲ちし赤誠に
かお あたか せき
薫る安宅の関ありて
あお われ かんげき
仰ぐ我らが感激は
ちからあふ ゆ
力溢れて温泉とたぎる
かんこう だいこまつ
ああ観光の大小松

せいぎ あい お
3 正義と愛とを織りなして
へいわ かね
平和の鐘のなるところ
いましんこう いき も
今新興の意気燃えて
すす われ ねっけつ
進む我らが熱血は
ぶんか はな とわ さ
文化の華と永久に咲く
み やくしん だいこまつ
見よ躍進の大小松

3. 姉妹都市・友好交流都市との交流

小松市では、国境を越えた市民交流や国際理解の推進のため、海外の都市と文化や教育、行政などの分野で交流を行っています。

小松市は4つの姉妹都都市に加え、7つの都市や国と交流しています。

<姉妹都市>

- ブラジル スザノ市 Suzano, BRAZIL 1972（昭和47）年7月11日提携
人口…29万人（2015年） 面積…206平方キロメートル 言語…ポルトガル語
サンパウロ市の東40キロに位置する。コマツの現地法人があり、ブルドーザーを生産している。日系人世帯が多く、石川県や小松市出身者も多い。
- ベルギー ビルボールド市 Vilvoorde, BELGIUM 1974（昭和49）年5月15日提携
人口…4万3千人（2016年） 面積…21平方キロメートル 言語…オランダ語
ベルギーの首都ブリュッセル市の北東約15キロに位置する工業都市。陸路はもちろん空路、水路ともに交通の要衝である。
- イギリス ゲイツヘッド市 Gateshead, UNITED KINGDOM 1991（平成3）年8月2日提携
人口…20万人（2016年） 面積…143平方キロメートル 言語…英語
ロンドンの北西、北イングランド最大のタイン川を挟みニューキャッスル市の向かいに位置している。ロンドンから飛行機で1時間。16世紀には英国最大の炭鉱町であったが、現在は美しい田園に囲まれた産業都市。
- 中国 山東省済寧市（さんとうしょうさいねいし） 2008（平成20）年9月5日提携
人口…835万人（2016年） 面積…1万平方キロメートル 言語…中国語
山東省の西南部に位置する孔子・孟子のゆかりの地。鉄道や高速道路など交通網が発達しており石炭採掘量が多いことから、アジア最大の火力発電所を有するなど重工業が発達している。

<友好交流都市>

- 中国 広西壮族自治区桂林市（こうせいそうぞくじちくけいりんし）
人口…492万人（2015年） 面積…2万8千平方キロメートル 言語…中国語
広西チアン族自治区の東北部に位置する。中国重点風景遊覧都市で、典型的なカルスト地形を成し、世界的に有名な景勝地である。
- 韓国 慶尚南道昌寧郡（けいしょうなんどうしょうねいぐん） 1996（平成8）年9月20日提携
人口…6万4千人（2017年） 面積…533平方キロメートル 言語…韓国語釜山（プサン）より車で2時間、ソウルからは6時間のところに位置する。産業は農業が中心で、玉ねぎ、唐辛子、柿などが主要農産物。観光資源として温泉が有名。
- ロシア イルクーツク州アンガルスク市 2017（平成29）年11月13日提携
人口…22万6千人（2017年） 面積…294平方キロメートル 言語…ロシア語
ロシアのシベリア南東部に位置する。近郊には大規模な油田があり、石油化学コンビナートが建設されている。また、原子力発電所も操業している。
- 台湾 彰化縣彰化市（しょうかけんしょうかし） 2017（平成29）年10月10日提携
人口…23万4千人（2016年） 面積…65平方キロメートル 言語…中国語（台湾語）
台湾中部に位置する。彰化市にある建国科技大学は、小松短期大学と大学間提携を結んでいる。近年は科学技術と観光の都市へと変遷しつつある。

<そのほか交流している都市や国>

スウェーデン王国、カイザースラウテルン市（ドイツ）、シェムリアップ州（カンボジア）

4. 自然・環境

＜山と海に囲まれた豊かな自然＞

北西部に日本海、東には霊峰・白山を望み、小松の地は豊かな自然に包まれています。美しい里山の風景が残る山間部には、大倉岳高原スキー場のほか十二ヶ滝や荒俣峡、日用苔の里などの景勝地が点在しています。

また、県内で唯一干拓事業などが行われず太古のままの姿を残す木場潟。潟から望む雄大な白山の眺望は絶景です。木場潟を囲うように整備された木場潟公園は、ウォーキングやジョギングに最適で、市民の健康づくりの場となっているほか、水生生物や水生植物の保護や観察などを行う環境学習の場としての活用も進められています。

豊かな水資源にも恵まれ、河田町の「桜生水」は、環境省選定の「平成の名水百選」にも選ばれています。



日用苔の里



木場潟

＜癒しの温泉＞

癒しの空間として忘れてならないのが温泉です。市内には、効能の違う温泉が点在していますが、中でも粟津温泉は、白山を開山した高僧・泰澄大師が718（養老2）年に発見したと伝えられ、平成30年に開湯 1300年を迎えた歴史ある温泉です。豊富な湯量と、切り傷ややけどに効く名湯として知られます。総湯・足湯は立ち寄り湯として、地元住民や観光客の憩いの場として親しまれています。

また、粟津温泉には江戸時代から人々の間に伝わる「おっしょべ恋物語」があります。町の宿屋に奉公していた下女のお末と竹松。2人が紆余曲折の末に大恋愛を成就させた場所がこの温泉です。そこから民謡「おっしょべ節」が生まれました。

毎年8月には粟津温泉あがての「おっしょべ祭り」が開催され、揃いの浴衣を着た観光客や町民が踊りを競い、温泉街に踊りの輪が華やかに広がります。

おっしょべ恋物語の舞台となった粟津温泉は、プロポーズをする場所にふさわしいとして、「恋人の聖地」に認定されています。



豊富な湯量が魅力の温泉



粟津温泉総湯

5. 交通・運輸

空港、JR、高速道路などの整備された交通ネットワークが、市民生活や経済活動を支えています。

<小松空港>

北陸の空の玄関口である小松空港。J R小松駅から車で約10分、北陸自動車道小松インターから約5分と、アクセスに便利な場所に位置しています。

現在は、旅客便では国内線6路線（札幌、仙台、羽田、成田、福岡、那覇）、国際線3路線（ソウル、上海、台北）が定期便として就航しています。

更に、本格的な貨物ターミナル施設が整っており、ルクセンブルクやアゼルバイジャンとの間に貨物定期便が運行され、国際物流拠点として更なる発展が期待されています。



小松空港



小松空港の展望デッキ

<J R・道路網>

市内にはJ R駅としては小松駅、粟津駅、明峰駅の3つがあり、小松から名古屋・大阪へはそれぞれ特急で約2時間10分で結ばれています。将来、北陸新幹線（金沢―敦賀間）開業により、更なる交通ネットワークの強化が期待されます。

また高速道路では、北陸自動車道の小松インターチェンジに加え、福井・加賀方面から小松空港へのアクセスを強化するために、安宅スマートインターチェンジが設置されています。

市内の道路は国道76.1キロ、県道138.5キロ、市道730.0キロとなっています。
（平成29年4月1日現在）



J R小松駅

6. 産業・経済

<今に息づくものづくりの精神>

小松市は江戸時代から、前田利常公の殖産興業政策によって城下に職人たちが集まり、「ものづくり」をなりわいとして繁栄してきた歴史があります。現在では、世界的な建設機械メーカーが生まれ、その協力企業等によって機械産業を中心とした産業クラスターが形成されています。

さらには高度な産業集積と技術力を活かし、日本一のシェアを誇るパーティションメーカー、世界的な電子部品メーカー、日本有数のバス製造メーカーやそれらの関連企業が立地するなど、多様な産業集積が進んでいます。

また、繊維産業についても、高機能繊維など高い技術力を有する企業が多くあり、九谷焼や小松瓦などの伝統産業も盛んです。

空港・高速道路・鉄道が整備された小松市では、三大都市圏やアジア・欧米などへのアクセスや物流の良さを活かし、優良な産業団地の造成やインフラを整備するほか、「小松ブランド」の認定による販路開拓支援、産学官連携・産業間連携等による研究開発支援、ものづくり人材の育成、こまつビジネス創造プラザを拠点にした起業家支援などを実施し、さらなる産業の高度化を推進しています。



油圧ショベル



ホイールローダー

<恵まれた自然環境が育む農林水産業>

古くから米どころの小松市は、現在も県内有数の収穫量を誇ります。通常のコシヒカリを始め、山間地で減農薬・減化学肥料で栽培した「蛸米」や、早生の品種「ゆめみづほ」など、どれも「味・香り・粘り」の三拍子揃ったおいしさです。

そのほかトマトやニンジン、千石豆、大麦の収穫量も県内シェア1位を誇ります。水を一切使わず、トマトと野菜を煮込んだ「トマトカレー」や、大麦を使った甘味など、自慢の主要農産物を使った加工食品の開発・販売も進められています。



農作業風景



トマト

7. 伝統の技・食の魅力

＜九谷焼―伝統と新たな創造―＞

世界に誇る伝統工芸「九谷焼」。その始まりは江戸時代初期、いわゆる「古九谷」発祥の地とされる九谷村にさかのぼります。

古九谷は50年ほどで突然途絶えますが、その後、九州出身の陶工・本多貞吉が花坂村（現在の小松市花坂町）の山中で良質な陶石を見つけ、若杉窯で本格的な磁器の生産が始まり、現代の九谷焼へとつながっていきます。

明治に入り九谷焼は「ジャパネクタニ」と称される日本の主要な輸出品となり、また、西洋の技法も取り込むなどしてさらに発展してきました。

作り手の発想や使い手の需要を受けて進化してきた九谷焼の世界。彩釉磁器で重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定された三代徳田八十吉や、同じく釉裏金彩で認定され現在も活躍している吉田美統などを輩出してきました。今も数多くの陶芸家が伝統を継承しながら新たな技法を創造し、小松から世界へ伝統工芸の美しさを発信しています。



三代徳田八十吉作「耀彩壺」



吉田美統作「釉裏金彩線文大皿」

＜進む地元グルメの発信＞

自然環境に恵まれる小松では、豊かな食文化がはぐくまれてきました。米やニンジン、トマト、加賀丸いもなどの農産物や、安宅漁港で上がる海の幸、白山の伏流水とおいしい米で作られる地酒、茶道文化が盛んな土地柄に伝わる伝統の和菓子、また郷土料理として伝えられる柿の葉寿司などが挙げられます。

さらに、地元で長年愛されてきたグルメを全国発信する取り組みも進められています。

「小松うどん」は、細めで歯ごたえの柔らかいコシのある麺と、ウルメやムロアジ、サバ節と昆布のあわせだしに薄口の醤油で淡く作るツユの口当たりの良さが特徴です。現在は、約70店舗が小松うどんつるつる創研加盟店に認定され、それぞれの店でオリジナリティあふれる小松うどんを提供しています。「小松うどん」のほか、「塩焼きそば」や「トマトカレー」、「カニの甲羅揚げ」などの地元グルメを求めて、県外からも多くの人が訪れています。また近年は、大麦やトマトなどの農産品の6次産業化も進められています。



小松の銘菓



奥の細道の途中で
松尾芭蕉にも
贈られたとされる
小松うどん

8. 歌舞伎のまち

江戸時代から脈々と受け継がれてきた伝統芸能「曳山子供歌舞伎」。そして、歌舞伎「勧進帳」の舞台となった「安宅の関」。これらの歴史と文化を、市民と一体となり、「歌舞伎のまちこまつ」として、未来に守り伝えています。

＜お旅まつりと曳山子供歌舞伎＞

菟橋神社と本折日吉神社の春季例大祭は「お旅まつり」の名で親しまれています。これは、両社の神輿が多彩な神具に飾られ、大獅子や多数の子供獅子を従えて氏子町内を巡行することに由来しています。江戸時代には小松城御門に赴き、加賀藩小松城の武運長久・加越能三州の泰平を祈願するのが恒例でした。

前田利常公は1640（寛永17）年に小松城に隠居すると、城下には武士・職人・商人が住み始め、小松の産業や文化が発展します。曳山子供歌舞伎は、この町人文化と財力・心意気、そして職人の技などが結集し、1766（明和3）年、龍助町と西町から始まったと伝えられています。以来、250年もの長きにわたり、「曳山子供歌舞伎」の伝統が受け継がれています。

曳山は、最盛期には16～18基を数え、文化10年頃までに10基となりましたが、2度にわたる昭和の大火により2基が消失し、現在では8基となっています。

また、こまつ曳山交流館みよっさでは、これまでお旅まつりでしか目にすることができなかった曳山2基を常設展示し、その迫力ある姿を間近に見ることができます。



絢爛豪華な曳山が勢揃い



曳山子供歌舞伎



こまつ曳山交流館みよっさ

＜勧進帳の舞台「安宅の関」＞

小松市西部、梯川河口に位置する港町・安宅。安宅住吉神社には、黒松林の中に安宅の関があったことを示す石碑がひそやかに立っています。

安宅の関は、歌舞伎「勧進帳」の中で、兄・頼朝の追及の手を逃れ奥州に向かう義経一行の前にたちはだかった関として知られています。

山伏に扮した一行は東大寺再建の勧進の旅であると関守の富樫に申し立てます。「ならば勧進帳を読み上げよ」と迫る富樫。弁慶は真っ白の巻物を手に文字が書いてあるかのように朗々と読み上げ、無事通過できそうに見えた矢先、強力姿の義経が怪しいと見とがめられます。「お前がのろのろしているから疑われるのだ」と身を切られる思いで主君・義経を杖で打つ弁慶。義経一行と気付きながら弁慶の主君を思う気持ちの強さに打たれ、富樫は一行を通します。

三者が織りなす「智・仁・勇」の感動ドラマは今でも私たちの心を打ちます。



安宅関址



勧進帳銅像

＜子供たちへの伝統の継承＞

全国に「歌舞伎のまちこまつ」の魅力を発信すべく、平成11年から開催しているのが「全国子供歌舞伎フェスティバルin小松」です。

毎年5月、日本各地に受け継がれる子供歌舞伎を招き、地元小松の子供たちと競演します。小松の演目は「歌舞伎十八番の内 勧進帳」。役者は市内の小学生からオーディションによって選ばれ、長唄・囃子方も地元の小・中・高校生を中心に構成されています。日本各地の子供歌舞伎が一堂に会するとあって、地元のみならず日本各地の歌舞伎ファンも多く訪れ、子供たちの迫真の演技を通じて、伝統文化の素晴らしさを感動とともに味わいます。

また、子供たちの伝統文化への理解を深め、継承していくため、市内の中学校では昭和61年から「中学校古典教室」を実施しています。毎年、持ち回りで1校が「勧進帳」を上演するというもので、役者、長唄・囃子方の出演はもちろん、メイクや着付けなどの裏方、公演パンフレットづくりまで、全てを生徒たちの手で行っています。

全国子供歌舞伎フェスティバルでの勧進帳上演の様子



歌舞伎十八番の内 勧進帳

9. 乗りもののまち

小松市内には、航空プラザやポッポ汽車展示館、日本自動車博物館など、乗り物に関連した施設がたくさんあります。また、世界有数の建設機械メーカーや、全国で唯一ハイブリッドのバスを製造するメーカーの工場もあります。

空港やＪＲの駅もあることから、さまざまな乗り物を見たり、体験したりできる「乗りもののまち」なのです。

<石川県立航空プラザ（安宅新町）>

グライダーから曲芸飛行機、ジェット機まで揃った日本海側唯一の航空博物館です。航空の歴史や原理を分かりやすく紹介しているほか、フライトシミュレーターも体験できます。また、日本最大級の飛行機型遊具「飛ぼう〜ん」は子供たちに大人気です。



<ポッポ汽車展示館（尾小屋町）>

旧尾小屋駅跡地に保管されていた尾小屋鉄道の蒸気機関車・気動車・客車の3両を移設、保管庫を新築し、展示館として整備しています。鉄道関係の資料も合わせて展示し、尾小屋鉄道の歴史も振り返ることができます。



<日本自動車博物館（二ツ梨町）>

世界のクラシックカーや伝説の車、長年親しまれた国産・外国産の大衆車など、約500台を12000平方メートルの広大なスペースに一堂に展示しています。時代とともに、人々と生きてきた車の数々を間近に見ることができます。



<こまつの杜（大型ダンプ930E）>

小松市は、建設機械メーカー「コマツ」誕生の地です。小松駅東側のコマツ小松工場跡地に平成23年にオープンしたのがこまつの杜です。加賀地方の里山を再現した「げんき里山」、建設機械・産業機械とその技術に触れることができる「わくわくコマツ館」のほか、最大積載量297トンを誇る世界最大級のダンプトラック930Eが日本で唯一展示されています。展示車両には、実際に運転席まで上ることができます。



<土居原ボンネット広場（土居原町）>

JRより譲渡していただいたボンネット型特急電車「クハ489-501」が公園内に設置されています。

車両はボンネット型特急電車保存会によって管理・運営されています。4月下旬から12月上旬の土・日曜日、祝日には一般開放され、客室内への乗車が可能です。



<宇宙バスこまち☆>

E Vバス「宇宙バスこまち☆」は、先端技術が集まった電気の力で走るバスです。バスメーカーが設計から製造まで行ったものとしては、全国で3台目となります。電気の力で走ることで走行中のCO2排出はゼロとなり、また、走行中の音も静かであることから地球にも人にも優しい乗り物です。

車体にはこれまでにないデザインや最新の塗装技術が使用され、車内は宇宙船をイメージしたものとなっています。さらに、車内モニタには宇宙空間を小旅行する映像が流れ、冒険気分を味わうことができます。

【運行路線】

1. 空港E Vライナー（空港線快速）
サイエンスヒルズこまつ⇄小松駅⇄小松空港⇄航空プラザ⇄草野町⇄安宅住吉神社
2. スペースE Vツアー
航空プラザ発着の1周約6分の周遊コース



10. 環境王国こまつ

小松市は平成23年10月12日に全国では11番目、北陸三県の自治体としては初となる「環境王国」として認定されました。「安全・安心・本物」の農産物や加工品を消費者に提供できる地域ブランドとして、全国の環境王国と連携しながら取り組んでいます。

＜環境王国とは＞

「環境王国」とは、地域住民が築き上げた優れた自然環境と農業のバランスが保たれ、安心できる農産物の生産に適した環境の地域の中で、有識者で構成される「環境王国認定審査会」が認定します。

「環境王国ロゴマーク」は、厳しい認定条件を満たした市町村の農産物やその加工品にのみ認められる安心・信頼のブランドの証です。



＜小松市の評価＞

環境王国の認定を受けるには、35項目による審査を受け100点中50点以上が必要となります。

小松市は、

- ◎葦が生える湖沼面積が100アール以上ある（木場潟）
- ◎ヤマメ、イワナが生息する河川がある（大杉谷川・大日川など）
- ◎地域内に銘水の評価を得ている湧水がある（桜生水、弘法の水、観音水ほか）

など、25個の重要項目で満点評価を受け76点の高得点を獲得し、環境王国に認定されました。



＜今後の取り組み、そして世界へ＞

日本全国の環境王国に認定された自治体と連携しながら、消費者が求める「安全・安心・本物」をアピール・供給することで「生産・流通・消費」を活性化し、農産物などの販売経路の開拓や交流人口の拡大に取り組んでいきます。

北陸の空の玄関口・小松空港がある小松市の流通ルートを活かし、日本国内のみならず、全世界へとマーケティングを拡大していくことを目的に、空港内にアンテナショップ「空の駅こまつ」を開設。農産物や酒類、九谷焼の磁器など小松ブランドの物産を豊富に取りそろえ空港利用客へPRしていきます。

1 1. 科学とひとづくり

小松市は古くからものづくりのまちとして発展してきました。その高い技術力を継承し科学技術国をリードする人材の育成と、産業の集積を目的に「サイエンスヒルズこまつ」が整備されました。小松駅東エリアは、次世代を担う子供達がものづくりの礎となる理科・科学を学び、学生や研究者が集う「科学とひとづくり」の一大交流拠点です。

<サイエンスヒルズこまつ>

「未来を創る ひとづくり、ものづくり」をテーマとしたサイエンスヒルズこまつ。

サイエンスヒルズこまつは「ひととものづくり科学館」と「こまつビジネス創造プラザ」の2施設で構成されています。

ひととものづくり科学館のコンセプトは「ものづくり精神の継承と科学技術の啓発」。ものづくりの現場と科学の原理を融合した体験型展示場「ワンダーランド」や、日本最大級のドーム型3Dシアター「3Dスタジオ」などが人気を集めています。子供から大人まで科学を通じてものづくりが好きになるような体験・イベントを提供しています。

こまつビジネス創造プラザは「未来へ向けた地域の活性化と産業振興」をコンセプトとしており、初めてビジネスを行う創業者や、新産業創出・新分野進出に取り組む企業の拠点となる施設です。様々なビジネス・研究分野で、自分の夢を形にし、市内外や世界での活躍を目指す人々の活動を支えています。

サイエンスヒルズこまつ



サイエンスヒルズこまつ外観



夜間演出（風のイルミネーション）



3Dシアター

12. 珠玉と石の文化

東西文化交流の結節点であり、大陸文化の玄関口である小松。古来より、人・モノ・技術が交流する豊かな石の文化を育んでいます。平成28年度「『珠玉と歩む物語』小松～時の流れの中で磨き上げた石の文化～」が日本遺産に認定されました。

小松のものづくりのルーツである弥生時代の碧玉（へきぎょく）の玉づくりを始まりとして、古墳時代の腕飾り生産や高い切石加工技術、近世の高いデザイン性を有した小松城の石垣の築城技術、更には九谷焼や銅山。そして、小松のまちに残る石切り場や石蔵、全国の歴史的建造物に使用される銘石材まで。

2300年にわたり脈々と受け継がれる「石の文化」の歴史と魅力を発信しています。



1. 八日市地方遺跡出土碧玉製管玉（国重要文化財）
2. 那谷寺奇岩遊仙境（国名勝）
3. 小松城本丸櫓台石垣
4. 遊泉寺銅山跡の大煙突
5. 滝ヶ原石切丁場